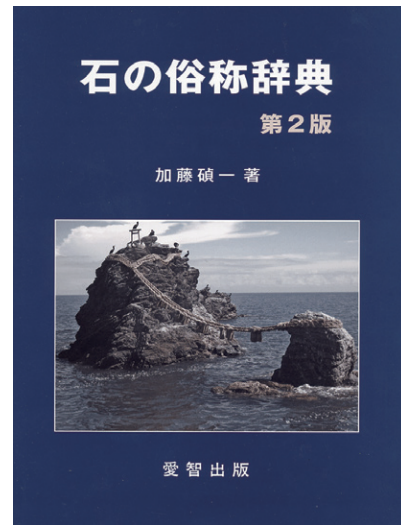


書評

石の俗称辞典 第2版

加藤碩一 著

愛智出版
2014年11月発行
A4判 408ページ
ISBN978-4872564198
価格：6800円＋税



本書は1999年に発行された「石の俗称辞典—面白い雲根志の世界」を大幅に書き直した増補改訂版で、日本全国に分布する様々な岩石の俗称を地質学的観点から解説するという、たいへんユニークかつ実用的な書籍です。辞典であるため五十音順に解説が並べられていますが、基本的にどのページから読んでも楽しみながら学べる内容となっています。

冒頭に岩石学の用語解説があり、本文の内容も平易な言葉で書かれているため、これまで岩石の専門書を読んだ経験がない方であっても石の俗称とその地質学的背景について慣れ親しむことができます。また地質学だけでなく、石にまつわる伝説や文学など、幅広い分野の知識が網羅されているのも本書の大きな特徴といえます。

例えば大理石や御影石など、身の回りの建築材料として使用されている岩については、岩石学的な解説だけでなく、全国各地での呼び名や使用方法について書かれています。

またアンモナイト化石の別名である「菊石」や、沖縄の土産物として有名な「星砂（有孔虫と呼ばれる微化石の一種）」、恐竜の体内にあった「胃石（消化を助けるために自

ら飲み込んだもの）」などなど、生物起源の岩石についての解説も多く、化石が好きな方にもおすすめです。

さらには、一休和尚の故事に基づいて開発されたストレス解消グッズである「大丈夫だ石」など、比較的近年に命名された俗称についても解説されており、旅行先で出会った様々な土産物のルーツを知るといった楽しみ方もできるでしょう。

また「軍艦岩」と名付けられた岩は福井県の東尋坊^{とうじんぼう}をはじめとした全国各地の景勝地に存在しますが、本書では8種類の軍艦岩について解説されており、こうした項目を読み比べることでそれぞれの由来や岩石学的違いについて知るといった楽しみ方も可能です。

岩石のお好きな方、岩石の身近な利用方法について知りたい方、さらには岩石学について学んでみたいけれども、どの本を選べばよいか迷っている方におすすめの一冊です。

(産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター 芝原暁彦)